

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791500020		
法人名	有限会社かるすと		
事業所名	グループホームもとぶ		
所在地	沖縄県国頭郡本部町字豊原262-1		
自己評価作成日	平成29年11月21日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4791500020-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4791500020-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成29年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然と緑に囲まれた当事業所は見晴らしが良く、八重岳、瀬底島が望め、室内は木目を多く使用し明るく、暖かな落ち着いた環境の中で入居者様と裏庭の畑で育てた作物を収穫したり、花を育てたり、天気の良い日はドライブに出かけたり、庭に出て、日光浴やおやつを食べながら会話を楽しみ日々の生活を一人ひとりのペースを大切に家庭的で楽しく安心して生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は緑豊かな集落内に位置し、敷地内には同法人の通所介護事業所とグループホームを併設し、開設3年を経過している。近隣住民との交流が日常的にあり、野菜などの差し入れや訪問者も頻繁にあり、地域との関係性が構築されている。設備面では床や壁などは木目調となっている。全居室に洗面台が設置され、3居室にはトイレも設置されている。屋外のベランダは外気浴ができるスペースが確保されている。散歩や庭の菜園など、利用者の活動に配慮し、屋外にもトイレが設置されている。3事業所共用の中庭は駐車スペースも含み、散歩や憩いの場となっている。入浴・排せつ・着替えなどの支援は、同性介助を徹底し取り組んでいる。知人、友人との交流を生活の継続性として支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を入社時や施設内に張り出し半年に一度、ミーティングで取り上げ全職員に地域密着型サービスの意義の周知をはかり地域に出かけるなど、地域との関わりを継続出来るように支援している。	理念は、「地域との関わり、家庭的な環境の下で利用者が安心した日常生活を営む支援」を謳い、事業所内に掲示及びミーティングで職員間に意識づけをしている。職員は利用者それぞれの違いを認め支援するよう心掛け、地域住民との関係作りとしては、行き交う際には声をかける等で理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町主催の敬老会や事業所の行事などに地域住民や知人友人に余興の依頼や行事参加をしていただいている。	事業所は集落内に位置し、近隣住民からの野菜や魚、ミカン等の差し入れや来訪も頻繁にある。隣家に「うちな一口推進者」がおり、敬老会にはうちな一口での物語を披露し、利用者から好評を得ている。定期的にボランティアによるハンドマッサージが行なわれ、利用者は心待ちにしている等、地域の人材活用及び交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員を認知症キャラバンの講師として派遣したり町主催の福祉まつりに入居者の作品を出展している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の近況報告、サービスの報告を行い、話し合いを行い運営推進会議で取り上げた意見をサービスに取り入れている。	運営推進会議は、隣接するグループホームと合同で年6回定期的に開催し、地域包括支援センター職員や知見者の社協職員と他事業所職員、地域代表も毎回参加している。本年度から利用者や家族も参加している。事業内容や事故報告等が行われている。会議の記録等が不十分であり、議事録の公表がなされていない。	議事録の整備および事業所等における公表が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場福祉課職員へ相談や役場主催の研修会に参加したり、事業所の実情やケアサービスの取り組みなど運営推進会議や直接伝えたり協力関係を築いている。	運営推進会議には毎回地域包括支援センター(町直轄)職員が参加し意見交換が行われている。包括支援センターの依頼で、離島や中学校等への認知症サポーター養成講座に、職員(キャラバンメイト)を年2、3回派遣するなどしており、協力関係が築かれている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことで生じる弊害を勉強会や、施設内外の研修へ参加し全職員が理解周知できるように取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践している。一人で外出し途中で保護された利用者の事例があり、以後は見守りを重点に支援している。家族へは、入居時に身体拘束の弊害などを説明し、拘束をしないケアについて理解を求めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や施設外の研修へ職員の参加や、ミーティングで職員間で話し合いを行い虐待につながらないか見過ごされることが無いように注意を払い虐待防止に努めている。	職員の「ちよつと待ってね」を言い換える事ができないかを職員間で検討した結果、利用者の支援が重複した場合は、「優先順位を決める」「他の職員に応援を依頼する」等の対応を確認している。職員がストレスを抱えないために、要望や相談しやすい環境づくりとして、管理者とケアマネジャーの二人で対応するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町役場主催の研修会などに参加し権利擁護について学ぶ機会を設けている、不明な点はとの都度アドバイスをいただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の説明を入居前に十分に行い、理解、納得されたうえで契約の締結をはかっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者へは日常会話やアセスメント時に日常生活への、要望や希望を聞き、ご家族へは面会時に報告を行ったり、入居者と家族を運営推進会議への参加を事業所便りにて告知し外部者へ表せる機会を設けている。	利用者からの要望等は、日々の会話の中で聴いており、外出の希望等はその都度対応している。家族からの意見等は、面会時や運営推進会議で聴いている。年1回家族アンケートを実施しているが、現支援に満足しているとの声が殆どで、意見や要望はない。毎月写真入りの「もとぶメール便」を家族に送付し、暮らしの様子を報告している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや日中のミニミーティング、毎月のミーティング時に出た意見提案を生かせるように職員で共有検討を行い、運営に生かしている。	管理者は会議や申し送り等で職員の意見や提案を聞いている。職員の提案で、これまで月まとめで実施していた誕生会を、誕生日当日に祝う事に変更したところ、利用者本人が喜んでくれた。職員の休憩場所の要望があり、ケアマネジャー室の一角を確保し簡易ベッドを設置するなど職員の要望に応えている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の健康診断の実施や資格所得に向けて、時間的支援や子育て中の職員には育児休暇や急な発熱体調不良時には早退や休みが取れるように、職場環境、条件の整備に努めている。	就業環境の整備として、夜間専属勤務者を配置している。認知症介護実務者研修を推奨しており、4人が受講している。法人として、福利厚生に資格取得等の費用の貸し付け制度があり、職員は活用している。年休・産休・育児休など100%実施している。インフルエンザ予防接種は全額事業所が負担している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技術や知識経験をふまえ勉強会や研修へ派遣、認知症介護実践者研修を受け職員のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会の会員としてGH連絡会主催の研修会へ参加し職員間の交流やネットワークづくりなど、同業者との交流を通してサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前と入居後に面談を行い、その方の生活状態を把握するように努め、本人が不安に思っていること求めていることを理解することを心がけている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることや要望など、これまでのサービスの利用状況、今までの経緯を傾聴し初期における信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者へは可能な限り柔軟に対応を行い、場合によっては他事業所のサービスを紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意分野で力を発揮していただき、指導を伺ったり、教えていただきながら、暮らしを共にする者同士の関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、本人の日常生活での出来事や要望をご家族へ電話連絡や面会に訪問された際に報告を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や店、週に一度地域公民館に習い事へ友人と出かけたり、法事など出かけた場合は家族へその旨を伝え協力して頂いたり、職員が同行したりし支援している。	馴染みの人や場との関係継続支援として、利用者の出身地域の行事にできるだけ参加するようにしている。自宅での習慣で毎日愛飲していた練乳の提供や服薬時間の拘りなど、これまでの暮らしどおりの支援をしている。友人が定期的に来訪し、一緒に公民館での絵画教室に出かけるなどの支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の相性を見極め、会話を楽めるよう席決めを行い孤立しないように支援している。またレクや手伝いなどで関わりが少ない入居者同士で関わりを保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療が必要になりサービスが終了しても、時々連絡を取り合い近況の確認をいただいている、		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に希望要望を本人と家族から聞き取りを行い、入所後も日常会話などから本人の暮らしの希望、要望を聞き本人の意向を把握するように努めている。	利用者全員が意志疎通ができ、日々の会話の中で意向を把握している。難聴の利用者には、ホワイトボードでの筆談や方言での会話など、それぞれに合った方法を工夫し希望等を確認している。集団の中では会話の少ない利用者も、居室では言葉数も増えるため、職員は毎朝の居室掃除の際は、個別に会話をする機会と位置づけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、知人、友人、より話を伺い生活歴、生活環境、馴染みの暮らし方また主治医に相談し病歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、会話、歩行、食事摂取動作などを通して身体状況を把握している、一人1人の有する力を手伝いなどを依頼し把握するように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時の本人及び家族との面談の希望や面会の折に家族や関係者から情報収集を行っている、またミーティングの際にアセスメントを行い職員の思いを聞いている。	介護計画は、利用者・家族の意見を反映して作成している。家族から「字が書けなくなっている」との意向があり、介護計画に位置づけて漢字ドリの支援をするなど、個別の意見を計画に反映している。毎月モニタリングを実施し見直しているが、支援の継続が殆どとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の思いや希望など個別記録に記入、モニタリングの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	花の世話がしたいなどの希望にプランターを設置、帰宅要求の場合は実際に自宅まで付き添いを行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友人と週に一度絵画教室に参加したり、地域行事参加などの支援を通して地域とのつながり本人が心身ともに力を発揮し豊かに暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が関係する、病院と連携し指示を仰いだりするなど適切な医療が受けられるように支援している。	利用者全員が、馴染みの医師がかかりつけ医となっており、うち8名が訪問診療を受けている。他科受診は家族が対応することになっている。診察後の情報伝達は電話もしくは家族の来所時に直接伝え共有している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきが見られたらすぐかかりつけ医に電話連絡を行い個々の入居者が適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に事業所の日常生活や服薬・身体状況の報告を行い・見舞いの時は必ず医師や看護師との情報交換を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やケアプラン見直し時に一度はに本人、家族と話し合いを行い終末期の希望の聞き取りを行っている。	入居開始時に「重度化した場合における看取りの方針」「重度化した場合における(看取り)介護についての同意書」を家族に説明している。入居後も毎年、終末期についての意思確認をしている。かかりつけ医とは、看取りについての協力関係が約束されている。現在まで看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法など消防署で消防職員より講習で受けたり、施設研修やミーティングで対応について再確認をおこなっている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して職員に周知をはかっている、地域との協力体制はまだ少ない。	事業所は平屋で、廊下や出入り口が広く、避難経路が確保できる構造となっている。消防署立ち合いの下で昼想定避難訓練を実施した際、「火元のドアを閉める」「いざとなったら窓(50cm程の高さ)から脱出する」などの助言があった。夜間想定での避難訓練が未実施である。災害時用に、レトルト食品の備蓄があるが十分な糧とはいえない。	夜間想定避難訓練及び災害時の備蓄用品の準備が望まれる。



自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導声掛けや入浴など同姓職員が行いカーテンを閉めるなどプライバシーの確保に努めている。普段の会話でも人生の先輩としての話かけを心掛けている。	地域の方言で職員が丁寧に話しかけたり、県外出身者には標準語で話す等、利用者に添った声かけで対応している。本人は歩行を、家族は安全のため車椅子使用を望んでいる事例があり、訓練士の助言を得ながら、家族に説明し、本人の意向を尊重した支援をすることで、杖歩行ができた事例がある。同性介助を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた気持ちで接し話しやすい環境を作り、個人に合わせ自己決定が出来る話かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が強制することなく、その日の入居者のペースを大切にしている、テレビを鑑賞したい方、居室で休みたい方、各々のその日のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人のくしや化粧品を準備いつでもおしゃれが楽しめるようにしている、時々職員が手伝い化粧などをおこなっている、馴染みの美容室へ出かけたり職員が好みの髪型にカットしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来ること出来ないことを見極めながら出来る方には職員と一緒に食事の配膳や下膳を手伝っていただいたり一緒に献立を考えてもらったり、できない方にもテーブル拭きを手伝ってもらっている。	利用者の好みの料理をレシピ本の写真から選んでもらい、献立に反映している。朝食は利用者の食べたい時間に提供している。晩酌の習慣のある利用者には、夕食後に家族が買い置きをしているノンアルコール飲料を提供している。利用者の希望する刺身、沖縄そば、回転寿司等の外食も提供している。職員も会話をしながら同じ食事を一緒に摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取、食事摂取が少ない入居者には好みの飲み物や食べ物を提供しながら常に摂取量を気にかけて一日の摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ自立でされているが、毎食後に声かけを行い口腔内の清潔保持、セッティングを行うなどその人に応じた口腔ケアをしている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、日中は居室トイレと共同トイレを使用し排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の半数は排泄自立している。介助を必要とする利用者の排泄パターンを把握し、体調により代わることもあることを念頭に、利用者の表情や状態を観察しトイレ排泄の支援をしている。利用開始前にリハビリパンツだった利用者が綿パンツとパットに改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や便秘体操を行っている、食事ではヨーグルト、牛乳など食物繊維が豊富な食品を提供している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴曜日は決まっているが、本人の希望で曜日を変更したり時間をずらしたり、個人の希望、要望を取り入れている。	入浴日や時間は利用者の希望にあわせ、柔軟に対応している。同性介助を徹底するため、職員のリフトを変更する事もある。利用者の好む温度や介助の際のタオル使用、見守りの仕方等、利用者の習慣や羞恥心を意識した支援の工夫をしている。入浴時間の意識付けで、浴室入り口には利用者目線で時計を設置している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に休息したり入居者の生活リズムを大切にしている、使い慣れた寝具を使っただき、リラックスして気持ちよく眠れるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌やレスキューシートに薬名、副作用、症状を添付し職員が把握、服薬の変更があった場合は申し送りノートと連絡表で掲示し全職員が把握できるように努めている。	服薬支援として、誤薬を防ぐため薬のセットを夜勤者と日勤者によるダブルチェック、服薬後の包装紙チェックを行っている。服薬後の体調と表情の変化から副作用を疑い、かかりつけ医に相談後、処方薬が変わり、状態が改善した事例もある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや洗濯ものほし、お茶の葉の袋詰め、調理手伝い、チラシでのゴミ箱づくりなど個人の得意分野で役割を持っていただいている、またドライブや民謡鑑賞会などの楽しみの時間を支援している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に職員が役場や買い物する際は入居者にも声をかけ外出支援を行っている、本人の希望があれば家族、職員同行で外出できる体制を整えている。	日常的な外出支援については、散歩や買い物など、利用者の希望に添って外出できるようにしている。具体的には、往復15分程度の散歩を楽しむ利用者やネギを種から植えたり、ミニトマトを栽培するために、庭の菜園に足を運ぶ利用者もいる。少し離れた出身地へのミニドライブも実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が金銭管理が難しい為家族や職員が管理をしている、買い物の希望があれば職員が付き添い支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が家族、友人へ連絡を取りたいときに自由に連絡出来るように支援している、ご家族、友人にも前もって本人の希望があれば連絡を行う旨を伝えている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や飾り物など本人の好みやご家族から本人が使いなれた物を持って来ていただき、本人主導で配置を行っている、掃除の際配置が変わらないように注意をしている。	居間のソファでは、相性の良い利用者が隣り合えるよう配置を工夫し、自治会便り・地域広報誌・新聞などを見ながらくつろげるようにしている。廊下や壁は木目調で落ち着いた雰囲気である。夏場日陰になる戸外のベンチや庭の椅子は、憩いの場となっている。屋外にトイレを設置し、屋外活動での排泄支援にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士お互いの部屋に行き来することもあり、楽しくゆっくり会話が出来るように、また1人になりたいと感じさせる場合は必要以上に深追いをしないように入居者のペースを大切にしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替え時に外気温と室温が急激に変化しないように注意をしその際不快ではないか確認をしている、また音に敏感な方にはなるべく大きな音が出ないように配慮している。	居室には、自宅で慣れ親しんだ鏡台・タペストリー・ランプ・好きな本などを持ち込んでいる。家族との写真や孫からの手紙なども掲示し、個々の居室は、居心地良く過ごせる工夫がされている。全居室に洗面台が設置され、3室にはトイレも設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやシャワー室の場所、使用中の明記、居室入り口に名前を張り出し本人が居室確認が出来るようしている、ベッドや椅子の高さや目印などその人にあった調整し安全に出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名：グループホームもとぶ

作成日：平成30年2月6日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	議事録の整備及び事業所における公表	運営推進会議での議事録の整備をより分かりやすく関係者に向けた公表に取り組む。	12ヶ月
2	15	○災害対策 火災や地震、水害などの災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に着けるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間想定避難訓練及び災害時の備蓄用品の準備が望まれる。	夜間想定避難訓練の実施と夜間帯を想定したマニュアル作成を行う、地域の協力体制を今まで以上に強化する。 備蓄量や保管場所をさらに充実させる。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。